

第88回藤野地区まちづくり会議（全体会）開催結果

日 時 令和5年2月13日（月） 19:00～21:00
場 所 藤野総合事務所4階会議室
出席委員数 20名出席（6名欠席）
傍 聴 者 4名

- 1 開 会 小山副代表
- 2 あいさつ 宮野代表
- 3 報告事項 藤野地区防災計画の修正案について、藤野まちづくりセンターから説明を受けた。修正に係る経緯、主な修正点（避難情報の改定、風水害時避難場所の指定、解除等）や今後の予定の説明があった。
<結 果>
意見等なし。原案のとおり手続きを進めることとされた。

4 議 題

（1）まちづくり会議委員の変更について

民生委員児童委員協議会より推薦されていた難波委員が民生委員を退任されたことに伴い、新たに中村委員が推薦され、まちづくり会議委員に就任した。

なお、難波委員についても今期の公募委員の枠が1名空いているため、全体会にて必要と認め、委員として残任いただくことが決定した。

（2）東京大学学生による「藤野の将来像を考える」発表会について

東京大学の学生が藤野地区を題材として地域の活性化に向けてどのように取り組んでいくべきかを現地調査等を踏まえ、学生の視点で発表がなされた。

始めに議題の担当課である緑区役所地域振興課より発表会の概要及び教授の紹介がされた。

続いて瀬田准教授の進行で3つの学生の班から発表が行われた。

なお、学生は3名来場され、その他の学生は会場とオンラインでつないで発表された。

○1班 人口維持・増加のための方策

藤野に住むメリットとして、「引っ越してきた人に優しい」、「住民が多く参加している地域イベントの開催」など、デメリットとして「伝統を受け継ぐことの難しさ」、「土地の有効利用」、「交通の利便性に欠けている」などがあげられた。

また、人口の維持、増加の方策として、雇用創出が重要性であり、新たな雇用を生み出す方法として次の方策が挙げられた。

1. アーティストを呼ぶため「芸術の藤野」のイメージを押し出す
新たなターゲット層：ミュージシャン、アパレルブランド

2. 藤野の特徴をとらえた製品をつくる

事例として、熱海市の「熱海プリン」、沼田市の「こんにゃくゼリー」が紹介された。

藤野の特徴をとらえた製品を作るために、次のことが重要となってくる。

- ・商品化できるポテンシャルを持つものを探す
- ・国や自治体による補助金制度の導入

3. 大企業のサテライトオフィス誘致

IT企業の誘致に成功した徳島県神山町が事例として紹介された。

神山町は高速通信のインフラを整備したことにより、2010年からIT企業の誘致に成功し、雇用を創出している。

また外部からの労働者同士の交流を生み出すハブ（インキュベーションセンター）の提供をしている。

- ・コロナ以降、リモートワークのニーズが高まっている
- ・テック産業は今後も成長が見込まれる

テック産業：ITテクノロジーを活用してビジネスを展開する

○2班 「好みのグループ化」 旅行客と関係人口を増やすために

関係人口としては、藤野出身の人々、仕事のための短期滞在者、頻繁に訪れる人があるが、観光客が増えれば、頻繁に訪れる人が増えることにより関連人口が増え、住民が増える可能性が出てくる。

移住者が多い徳島県神山町では、まちを将来世代につなぐプロジェクトがあり、いい住居がある、よい学校と教育がある、仕事がある、資源が流出していない、人の交流がある循環を起こすことを目標としている。

滞在的な関係人口の需要や嗜好によるグループ化として、観光、仕事、学び・農業のための滞在があげられた。

藤野では「動く、楽しむ、知る」の要素でアクティビティがあるが、その発展例として外国や他市の取り組みが紹介された。

また、宣伝、広告として、他市の事例を紹介しながら、東京でのPRやそれぞれの年齢層に向けたPRなどの提案があった。

さらに交通利便性の向上として、シェアバイクの紹介などがあった。

まとめとして、関連人口を増やすためには、それぞれの需要に応じたアクティビティを提供することが大事である。

アクティビティ：レジャー分野では、施設が提供する遊び方を指す

○3班 ビジネス振興・雇用増加

始めに学生が調べられた、藤野の歴史、土地利用、交通アクセス、人口、雇用と産業について説明があった。

次に現地での視察からの印象として、「芸術が盛ん」、「魅力的な人々が多い」、課題として、「高齢化が進んでいること」等が挙げられた。

これらを踏まえてビジネスプロモーションの観点から活性化のための新しいビジネスモデル、活用可能な資源はなにか、どのように協働し、持続可能としていくかを考えた。

ビジネスモデルとして、藤野キャンプと藤野ワーケーションの提案があった。

藤野キャンプでは、子どもと青少年を対象に、アート&クラフト、仕事体験、イングリッシュキャンプ、ゲーム&アドベンチャーなど藤野の今ある資源を生かして提供する。

藤野ワーケーションでは、コロナ禍以降盛んになっているワーケーションについて、ターゲットとなる企業のチームや家族等の観光客向けのアプリ、ウェブサイト等の仕組みの充実を図り、統括となるアプリと窓口となる組織づくりを行いサービスやイベントを提供する。

ワーケーション：Work と Vacation の造語

各班の発表の後、まちづくり会議委員から質問や意見を行った。

(主な質問・意見)

- ・ 1 班の発表の中で、アーティスト、ミュージシャンをターゲットにすることで、どのように雇用が生まれるか具体的に聞かせていただきたい。
都内では音が隣に響く問題があり、藤野の古民家等を利用できればと考えた。
- ・ 子育て世代には普通に生活するには不便を感じており、その世代が増えるような方策をお聞きしたかった。
重要な視点であり、今後ターゲットを絞ってみたい。
- ・ 住民が出て行かなくなるには、その子供たちが出て行かなくなるにはどうすれば良いのかの視点で捉えてもいいのではと思う。
- ・ 地域としても藤野の情報発信に力を入れなければいけないと思った。
- ・ 平日に藤野へ来る人口が少ないが、それに対する提案があれば伺いたい。
都心に近いため、ワーケーションに力を入れたらと思う。

5 その他

(1) 買い物支援に関するアンケートについて(藤野まちづくりセンター)

藤野まちづくりセンターより、日頃の買い物をどのようにされているかアンケートの実施について報告があった。

緑区では買い物弱者について検討しており、商店等の利用状況や交通手段など買い物をどのようにされているかアンケートで実態把握を行い、自治会や高齢者包括支援センター及び社会福祉協議会と意見交換をしながら地域としての検討を進めていきたい。

アンケートは2月から4月にかけて実施させていただき、21、22日の自治会長会議で協力をお願いをする。

また結果については、フィードバックをして意見等を伺う予定である。

(2) PRマンホール蓋について(藤野まちづくりセンター)

以前、藤野まちづくりセンターよりデザイン募集があったPRマンホール蓋について、決定された報告があった。

また、3月19日(日)にアリオ橋本でお披露目会があることの報告があった。

(3) 井上委員からの報告

NPO法人ふじの里山くらぶで行われている環境整備活動について報告があった。

(4) 星委員からの報告

吉野宿ふじやで3月19日まで甲州道中おひなさま展が開催されている報告があった。

6 閉 会 加藤副代表

以 上

藤野まちづくり会議
×
2022年東京大学冬学期輪講
(フィールドワーク)
芸術の村「藤野」の将来像を考える



【活動内容】

- ・ 藤野が持つ様々な資源や個別の活動が、人口減少局面の農山村の地域活性化に向けて地域全体としてどう発展・変化していくのかという視点で考察
- ・ 定住人口の減少を緩和・反転させるか、それとも定住人口の減少を受容しながら観光や2地域居住などを受け入れるかなどの考察
- ⇒ 外国人、また学生という立場から、藤野の特徴のうち、高く評価できる面、改善ができる面を抽出し、将来に向けた中長期的な案の発表を行う。

【スケジュール】

- ・ 基本的に、10月中旬から2週間に一度開催。
- ・ 10月 参加者同士の議論（オンラインか対面かは参加者の要望を踏まえて）
- ・ 11月6日 現地フィールドワーク
- ・ 12～1月 外部の講師を呼んでの勉強会
- ・ 2月13日 現地発表会（藤野まちづくり会議）

【輪講体制】 15名

- 東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻 瀬田史彦准教授
国土交通省関東地方整備局
リニア中間駅周辺の豊かな地域環境と融合した新たなワークスタイル創出検討会座長
(津久井・相模湖・藤野をフィールドとしたワークスタイル検討会)
研究分野：都市計画、地域開発



- 三重大学大学院 工学研究科建築学専攻
兼 東京大学先端科学技術研究センター客員研究員 近藤早映准教授
研究分野：社会基盤（土木・建築・防災）、建築計画、都市計画/



- 東京大学大学院 学生 7名
(中国2、フィリピン1、アルバニア1、インド1、インドネシア1、日本人1)
- 東京大学工学部 学生 5名
- 三重大学 学生 1名